

2015年(平成27年) 3月4日(水曜日)

外国人誘客 具体策示す

都内で日光の活動報告

活動実績を報告する松本社長＝3日午後、都内



環境省の「インバウンド(外国人誘客)における国立公園の可能性を考えるワークショップ」が3日、都

内で開かれ、ファーマーズ

・フォレスト(宇都宮市)の松本謙社長が活動実績を報告した。

外国人旅行者を地方の国立公園に呼び込み、ツーリ

ズムモデルの創造を目指す魅力発信モデル事業の一环。観光業者ら民間企業、自治体の関係者約80人が参加した。

日光は九州エリアと共に指定を受けて本年度、モデル事業を実施しており松本社長は地域側のコーディネーターを務めている。

松本社長は「(外国人に)広い日光を二元的に見ても「見えない」などと課題を提示した上で、外国人を対象に日光中心部から奥日光・中禅寺湖、奥鬼怒・栗山、

霧降高原を2泊3日で回ったモデルツアーを紹介。「言葉は大きな不安にならないかった。外国人と地元の人との視点の違いを擦り合わせられた」と評価した。

アクションプランの策定ではエリア体制整備、キーマンネットワーク強化などの具体策を示した。情報発信については「外国人目線を取り入れ、長期滞在ができることも訴える必要がある」と強調。さらに地域が連携する重要性を訴えた。

(鈴木憲一)